

北神けいろうの国政報告：2月号

いつも大変お世話になっています。

昨年の総選挙から一ヶ月以上経ちました。再挑戦に向けて、投票日の翌日から、基本的には毎朝、街頭に立っています。また、まだお会いできていない方々もおられますが、応援いただいた多くの方々とお話をさせていただきました。温かい激励のお言葉をかけていただき、「有難いなあ」と感激しています。他方で、今の民主党に対して、厳しい指摘も受けています。

私は、民主党は極めて厳しい状況にあり、皆さんの信頼を回復するのは容易でないと考えています。しかしながら前回、民主党が政権についた後に、政権交代から一年経っても、私の友人の自民党の議員が「このまま自民党はなくなってしまうのでは」と不安な思いを漏らしていたこともありました。したがって、現時点で一喜一憂すべきではないと考えています。ただ、今回の民主党は、他の政党が反自民の受け皿になっていく可能性もあり、一段と厳しい状況にあります。

私も現職ではなくなりましたが、党の再生に向けて積極的に発言をしなければならないと考えています。

一つは、党が一致結束するために、既に存在する党の綱領を新たに、もっと詳細に議論をして、外交や国家観を中心に大きな方針を共有することです。また、党内で物事を決めるための手順をもう一度確認して、意見が異なっても、議論をして決まったら、従うという組織文化を強化しなければなりません。

もう一つは、民主党がこれまで行ってきた改革が日本にとって必要だ、とさらに強力に訴えることです。選挙期間中も主張しましたが、やはり、我が国の経済や社会保障にとって、人口減少、少子長寿化、労働人口の減少がもっとも大きな課題です。政権党としてもそれなりの成果を上げています。

例えば、保育の受け皿を拡充した(2010年度 2.6万人 → 2011年度 4.6万人) こともあり、京都市内の保育所の待機児童の数が半減しました(2010年 236人 → 2012年 122人)。今や、共働きをしなければやっていけない時代において、仕事と育児の両立のための政策は、今後も充実していかなければならないと考えます。

経済対策も産業政策も必要ですが、やはり、内需中心の経済成長のためには、現役世代の減少を食い止めなければなりません。医療・年金・介護を支えるのも現役世代です。

また、必要な公共事業は大いにやればいいものの、自民党が主張している200兆円の公共事業をやるよりも、「人への投資」「将来への投資」を推進すべきではないでしょうか。

これからも茨の道が続きます。しかし、私は、まだ京都と日本のためにやれることがあると思っています。上に述べたことも含め、一から活動を再開し、発言行動をしまいいります。今後とも、皆さんの温かいご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。